

2025年度

学校名

対象学年

① 学習指導案

プログラム	No.08「わたしたちのまちに言葉の贈りもの」
単元名 (全15時間)	校歌修復プロジェクト ～これまでの150年と、これからの150年～
学習のねらい	・長年にわたって掲示してあった古い校歌板の修復を通して、これまでの卒業生が繋いできた思いに気付けるようにする。 ・校歌の周りに新たなデザインを加え、そこへ自分達や学校に携わる人々、地域の方の思いをのせることで、これからも愛される景観をつくれるようにする。
学習内容	1プロジェクトの計画を立てる。 2校歌修復の流れを企業の方と確認する。 3デザイン打合せ、取材、制作 4まとめ
参考資料 準備品 実施場所等	・タブレット ・修復用木材、ペンキ、ワックス ・旧校舎、新校舎




学習の流れ






時間	学習活動	教師の指導	評価
1	・プロジェクトの計画を立てる。	・活動や計画の流れを整理する。	・活動の見通しをもつことができる。
2	・企業の方による校歌修復の講習を受ける。	・作業内容だけでなく、デザインに反映させる思いをもてるようにする。	・修復の方法や思いをデザインに反映させる方法について考えることができる。
3～ 4	・デザインのアイデアを話し合う。	・自分達だけでなく、取材等しながら考えられるようにする。	
5～ 8	・校歌修復作業をする。	・用具を安全に使用できるようにする。	・学校やまちに対する思いを表現することができる。
9～ 12	・デザイン部分を制作する。	・自分の思いと、まちの人や学校に携わる人々の思いとの共通点や違いに気付けるようにする。	・学校やまちの景観と人々の生活が繋がっていることに気づくことができる。
13	・企業の方と最終確認		
14	・保護者の方へのお披露目会		
15	・プロジェクトを振り返る。	・これからの二小の景観について考えられるようにする。	・学校やまちに対する愛着をもつことができる。

<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 二俣川小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	プロジェクトの計画を立てる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで二小に関わってくれた方や、これから二小に来る人の誰が見ても、愛着がもてるようにしたい。</li> </ul>
2	少人数 教室	企業の方による校歌修復や、木材を使ったデザインの仕方についての講習を受ける。	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年の6年生から繋がっているプロジェクトなので、思いを形にできるようにしたい。</li> <li>• 国産の木材を使うことで、SDGsにも貢献できるようにしている。そんな工夫も発信していきたい。</li> </ul>
3 4	教室	デザインのアイデアを出し合い、修復の方向性について意見をまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 二小のスローガンにもなっている「笑顔いっぱい、友達いっぱい」は、卒業生が見ても在校生が見ても分かる言葉なので、デザインの中に取り入れたい。</li> <li>• 今後70年以上飾られることになるので、飽きのこないデザインにしたいな。</li> </ul>

5～8	少人数 教室	校歌修復作業をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>校歌板に付着した汚れを丁寧に取る。</li> <li>はみ出したインクを彫刻刀で削る。</li> <li>ワックスを塗る。</li> <li>文字をインクで塗り直して仕上げる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>インクがはみ出ている部分が多くて、大変だった。</li> <li>彫刻刀で削りすぎないように慎重に作業を行った。1つ1つの歌詞が遠くからでもはっきりと見えるように気をつけた。</li> </ul>
9～12	少人数 教室	デザイン部分の制作をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分達で決めたデザインを木材に写し取る。</li> <li>彫刻刀で丁寧に削る。</li> <li>木の周りの皮をはぎ、やすりで削る。</li> <li>文字に色を付け、ワックスで仕上げる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>木が固くて、なかなか思うように作業が進まず苦労した。</li> <li>体育館に飾った時に、木くずが落ちないように丁寧にやすりがけをした。</li> </ul>
13	少人数 教室	企業の方との最終確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>仕上がりの確認。</li> <li>体育館に飾る時の最終レイアウト決め。</li> <li>ビスで固定する。</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>いよいよ完成間近という感じで嬉しくなった。オカムラさんと、周りに配置する丸太の位置を細かなところまで決めることができた。</li> </ul>
14	少人数 教室	保護者の方へお披露目会をする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>デザインや、校歌の周りに選んだ言葉の理由など、保護者の方にもしっかりと伝えることができた。お家の方も二小の卒業生なので、完成した校歌を見て喜んでほしい。</li> </ul>

15	体育館	これまでのプロジェクトをふり返る。		<p>・今回飾られる校歌は、これからの二小のシンボルになるものなので、緊張感をもちながらも、色々な人の思いを込めて作ることができたのでよかった。これから先も、二俣川小学校の子ども達を見守ってくれたらいいなと思う。</p>
----	-----	-------------------	--	--

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>今回のプロジェクトは、前年度の6年生から引き継いだものだったが、今後長期にわたって学校の体育館を彩る校歌板の修復および新デザインの制作だったので、自分達だけのものではないという部分を大切に進めるようにした。これまでの卒業生や、先生方、ずっと見守ってくださっている地域の方など、多くの方に今回のプロジェクトの趣旨を伝え、どんな修復をしてもらいたいのか、どんな言葉をデザインに加えていったらよいか等、様々な方の思いや願いをもとに考えられるように工夫した。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>デザインと予算との間で折り合いがつかず、材料の調達に時間を要してしまった関係で作業が当初の予定よりも遅くなってしまった。また、新校舎への取り付けにあたって、重さの関係で取り付けできる業者がなかなか見つからず、卒業に間に合わせるために苦労した。子ども達の作業も本物の木を扱うため、彫刻刀で削るのはかなり大変だったが、何とか形にすることができた。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>前回校歌を作成した卒業生が、昭和63年。今回作成した校歌も、次の校舎の建替えまで掲示されるということで、子ども達は責任の重さを感じつつも、一つ一つの作業にとってもやりがいを感じながら行うことができていた。また、今回作業の仕方や、仕上がりのイメージ等たくさんのアドバイスをいただいた企業の方、言葉を考える時にインタビューをした学校や地域の方、板を削り出す時などに一緒に手伝ってくださった副校長先生や事務員さん、技術員さんなど、多くの方との交流を通して、より学校に対する愛着を深められるようになった。</p>

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

今回のプロジェクトを通して、単に作業をするだけでなく、様々な方の協力や交流を深めることができたことで、子ども達の思いがどんどん膨らんでいくのを実感した。「この校歌を見てくれる人に喜んでもらいたい」「誰が見ても分かるように、二小のスローガンをのせたい」という思いが生まれてきたのも、多くの方との出会いや交流があったからこそその思いなので、それを実感しながらできたのが一番の成果だったと思った。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

子ども達だけでなく、材料費の調整、校歌取り付けに関わる工事の段取り等、大人の側での連絡調整が求められる部分が多かったため、見通しをもって計画的に進めていかないと難しいと感じた。